

どっかい生きてます!



栗原豊センター長ら3人が今春から通学(定時制課程)している県立鹿島灘高校で11月11~12日、恒例の文化祭「第25回灘潮祭2016」が開かれ、多彩な企画で盛り上がりました。テーマは奇しくも27日に開く潮騒フォーラムと同じ「繋がりで、大いに刺激を受けました。一般公開日(2日目)には、女性ハウスのメンバーからも応援に掛け付け、みんなで学校イベントを楽しみました=左からエブロン姿の栗原センター長、シュンさん、マコトさん、4、5ページに記事。

2016

11

クラスメートの少女達に 私の失敗体験を伝えたい



晩秋から初冬に向かい、寒さが身に染みてくる季節です。皆様、体調管理には一段と留意してください。さてご承知のように「70の手習い」の私の高校生活(夜間定時制)も、夏休みを挟んで半年が過ぎました。孫世代の同級生達との学校生活はとても刺激的で、見るもの聞くものすべてが新鮮です。私もすっかり15歳の少年時代に戻り、高校生活をエンジョイしています。夜間部とはいっても、昔のように働きながら学ぶ勤労生徒はほとんどいません。多くが家庭内で複雑な問題を抱えていたり、いじめなどに遭って不登校や引きこもりで苦しんだり、ある種の心の病を抱えたりするケースが見られます。社会や人間関係に躓き、うまく折り合いを付けることができない私達アディクトに通底する、ボーダーで難しい領域の課題を背負っているのかもしれませんが。うまく言葉には表せなくても、ジェネレーションギャップを超えた共感を抱かせます。そんな高校生活の中で先頃、文化祭のイベントがありました。一緒になって熱心に準備作業に励む15歳の少女達を見ていて、私には涙を禁じえない過去の一シーンがよみがえりました。

既に何度かクスリ(覚醒剤)とアルコールに起因する事件で逮捕され、家族は私の元を離れたのですが、二人の姉妹のうち当時15歳だった下の娘だけは「お父さんと一緒に暮らす」として、私との二人暮らしを続けていました。しかし、どんなに愛しい娘がいても、ブレーキにならないのが依存症の怖さです。またもや逮捕され、住んでいたマンションから手錠を掛けられて刑事に促されて出て行く際に、今後どうするかを問われた下の娘は「お父さんが帰るまで私待っている」と話しました。刑事は私の顔をにらみ付けました。「娘をこんなに悲しませて、それでもお前は人の親か…。無言でそう怒っているのが伝わりました。私は大泣きしながら刑事に連行され、警察車両に乗り込みました。これが依存症の正体なのです。日本一、世界一愛しい、可愛い娘のためであっても、やめられない世界なのです。人間の心を奪い、悪魔に仕立て上げられてしまうのが依存症なのです。

その後は、娘なりに「自分の共依存こそが父親の依存症の支え手になる」と勉強したのでしょう。下の娘も私から離れ、私は完全に一人ぼっちになりました。やけになった私は、ますますクスリとアルコールにのめり込み、誰にも相手にされずに「どん底」に向かって突き進みました。やがて一足先に回復の道を歩んでいた姪の応援でダルクに繋がり、幸運にも回復人生を歩んで今日があります。今の私は、最後のはしごを外してくれた下の娘には人一倍感謝しています。でも、15歳の娘にどんなにか悲しい思いをさせたかと思うと、私は切なく涙なしに当時を振り返ることができません。今一緒に机を並べる15歳の少女達も、娘のように思えて仕方ありません。いろんな困難はあるでしょうが、くじけずに頑張っしてほしいと思います。役に立つかは分かりませんが、身近にこんな回復人生があることを伝えたいです。

(センター長 栗原 豊)

イチさんの棚卸

第2回

「日記風の回想録」

和太鼓と広報活動に 加わった仲間達が 次々と姿を消した



引き続きアディクトのイチです。前回書いたように僕は去年、この潮騒ジョブトレーニングセンターで今と同じように和太鼓活動と共に広報部活動を同時進行で行っていました。その頃、和太鼓と広報部の活動を一緒にやっていた仲間はシュンさんとマサヤ、チハルでした。その後にショウホウ、フジさんの二人が太鼓活動に加入し、さらにはスーさんも和太鼓に加入しました。そして間もなくマサヤが太鼓活動と広報部から姿を消してしまい、ついには潮騒ジョブからも姿を消してしまいました。さらにショウホウさんが潮騒から出て行き、広報部&潮騒連中(和太鼓グループ)からも姿を消してしまったのでした。

依存症の回復を目指す取り組みは、息の長いマラソンのようなものです。だから生涯に渡る治療が求められます。依存症には特効薬はありません。精神科病院に入院しても一定期間は断薬や断酒ができて、社会に出れば再び再発する爆弾を抱えているようなものです。しかし、この厄介な病気も仲間の中でなら、回復の希望が持てるから不思議です。どうやら、依存症の回復メカニズムには霊的な部分に関係がありそうです。その意味で、当然ながら施設も万能・万全ではありません。入寮してみたものの施設が肌に合わない仲間もいます。人間関係やコミュニケーションづくりが苦手な仲間、ステップの理解がなかなか進まずに感情のコントロールが効かない仲間もいます。トラブルの挙句に施設を後にしたものの、自分の事を棚上げして施設に一方的に憎しみを抱く仲間もいます。挙句に、自分の躓きを施設や仲間のせいにして一方的に悪感情を膨らませ、外側から施設の悪口を吹聴し

たり、何かとトラブルを起こさせて揺さぶろうと画策する仲間もいます。悪質で、ゆがんだ心持ちだとしても、依存症の回復を目指すなら彼らも同じ仲間です。

ですから、施設に残った者達も仲間が途中でリタイアすることは折り込み済みで付き合わない、よくある裏切りや身勝手な振る舞いだとして、病気そのものよりも当事者の人間性を否定する感情に囚われてしまい、結局は自分も回復の歩みを歪めてしまう危険性があります。とりわけスタッフの役割を与えられている者達は、このことに注意しなければなりません。過去と他人は変えられず、変えられるのは未来と自分自身だということを、仲間の失敗は教えてくれます。なので彼らを反面教師にして常に自分のプログラムの実践とミーティング参加を怠らず、自分をブラッシュアップする必要性を感じます。

さて、そうした入れ替わりの問題で広報部が揺れていた時期に、僕は近くの小山記念病院で自分の糖尿病の検査を行いました。その時は、それまで計っていた数値とあまり変わらず、悪い結果ではなかったのです。いや、それは僕の妄想でした。僕は、その時までは別に毎回の検査の時と一緒になのだと思っていましたが、これが大きな誤解でした。僕が勝手に「問題ない数値だ」と、そう希望的な観測で思い込み、否定的な現実から逃げるように、自分に都合のいいように解釈していたのです。でも、実際には糖尿病の診断基準や血糖管理の重要な指標となるHbA1c(ヘモグロビン・エイワンシー、目標は6.4%、合併症を防ぐには7.0%未満に抑え、6.0%台をキープすべきとされる)がなんと9.0%もあったのです。とても危険な状態でした。(この項続く)



鹿島灘高校の「第25回灘潮祭2016」

生徒と先生方との一体感と成功目指す方向性に刺激受ける
依存症者のスピリチュアルな目覚めに通じると実感

栗原豊センター長、仕事隊リーダーのシュンさん、百寿亭代表のマコトさんの3人が、今春から定時制課程で学んでいる県立鹿島灘高校(鹿嶋市志崎)で11月11、12日の両日、学校文化祭「第25回灘潮祭2016」があり、「繋がりう みんなでひとつの 灘潮祭」をテーマに多彩な発表や展示、工夫を凝らしたパフォーマンス、個性あふれる教室企画などで盛り上がりました。初日の校内発表に続く2日目(最終日)の一般公開では、73歳の栗原センター長も孫世代のクラスメートと一緒に来校した皆さんに熱心に接客対応し、高校生活にすっかりなじんでいる様子を伺わせました。

潮騒の仲間3人はカラオケやポップコーン企画に参加

センター長のクラスでは「からおけスターズ」と銘打ち、ユニークなカラオケ企画で存在をアピールしました。高校生らしい手作りの飾りつけのステージで、1曲50円、ソフトドリンクも50円で提供し、テーブルに座りながら歌える工夫も見られました。教室の入口では先生やセンター長、シュンさんが呼び込みに励み、「一曲どうですか？」

音楽で一緒に繋がりましょう!」などと明るく声を掛けていました。歌の予約をしたお客さんには番号札を渡し、順番が来ると共にエプロン姿が可愛いセンター長やシュンさんが「5 番号札の方をお持ちの方〜!」と接待していました。このように施設ではなかなか見られない、ほのぼのとした光景が見られました。

マコトさんのクラスでは、屋外でポップコーン屋さんに取り組みました。調理室で作って、休憩所横に設置されたテント下で販売。場所が受付の横にあったので結構、賑わっていました。皆笑顔で頑張っていました。残念ながら取材時にはマコトさんがポップコーンを売っている姿を見られませんでした。潮騒ジョブにおけるポップコーン作り&販売はマコトさんの十八番(おはこ)なので、より一層力が入っている様子が伺えました。

照れながらも年齢に相応しい踊りパフォーマンスを披露

この日は校門をくぐると、あちこちで先生方や灘校生から「こんにちは〜」と元気な挨拶で迎えられました。その丁寧で嫌味のない自然なホスピタリティー(もてなし)の笑顔

と謙虚な姿勢には、とても好感が持てました。廊下では「ねえ先生、〇〇ちゃん今どこにいる〜?」「あいつは、おばけ屋敷で並んでいたぞ〜!」などと先生と生徒のフレンドリーな会話が交わされ、深い信頼感が形成されているなあ、と感じました。

灘潮祭最大の見せ場のエンディングダンス「恋するフォーチュンクッキー」では体育館を広く使い、舞台上で踊った潮騒3人衆(笑)も若い高校生達に交じって、少し照れながらも年齢に相応しい? パフォーマンスを見せていました。応援メンバーの「るみの家」の仲間達もコスチュームに着替えて2階後方で、身内なりの応援ダンスで、エンディングダンスの盛り上げに一役買っていました。一般公開を取材した印象では、同じ学び舎での一体感が随所に感じられた文化祭でした。灘校は必ずしも地域における世評は高くないかもしれませんが、こうした形で先生と生徒が一体となって文化祭を成功させようとするエネルギーに満ちあふれていました。実は、取材者の私(ブー)もかつて自分が通った都内の高校の文化祭に参加した事があります。小さなホールでバンドの曲を2曲歌い、クラスの行事ではリサイクル品となるバッグや小物を販売しました。



「繋がり」がテーマの 潮騒フォーラムにも良い刺激に

既に高校生の段階で立派な? アル中になっていた私のカバンにはサントリーオールドが入っていて、ほろ酔い以上、泥酔未満で文化祭が終わると夕方には渋谷のカラオケ居酒屋に繰り出し、前後不覚になりまいた。先輩に起こしてもらったのを覚えています。それだけに素面(しらふ)で感じられた灘潮祭の雰囲気はとても清々しくて、帰りの駐車場を照らす太陽にさえ感謝したくなりました。もしかして、これがスピリチュアルな目覚めの一部なのかも…、日々のプログラムと仲間達との共同生活の中、当たり前のようにさせて頂けることへの感謝。飲まない生き方と闘うのではなく感じていけることの嬉しさを実感させられました。

ところで私は、間もなく27日に鹿嶋勤文で開く潮騒フォーラムに参加するのは、初めての経験です。学び舎が潮騒ジョブなら、さしずめ文化祭がフォーラム。奇しくも潮騒のフォーラムも「繋がり」がテーマなので、灘校の取り組みがとても良い刺激となりました。みんなで繋がり、文化祭イベントを成功させようという一体性と方向性を、アディクトの立場からスピリチュアルに学べたように思います。灘校関係者の皆さん、ありがとうございました。

(取材担当=広報部・ブー)

「タケシよ、黄泉の国で安らかに!」

～潮騒の仲間達が大勢参加してお別れ会開く～



「くそつたれ!」。メッセージ活動などで思うにまかせない自らの依存症人生を呪うかのように、そう叫んだ場面が記憶に残る薬物依存症の仲間、タケシ=本名、須藤剛さん=が11月5日深夜に亡くなりました。享年42歳。9日には鹿嶋市内の葬祭場で、潮騒JTCの仲間達が大勢参加してお別れ会(施設葬)が開かれ、掛け替えない若い仲間の死を惜しましました。

タケシは栃木県生まれ。両親と兄の4人家族でしたが、母はタケシが15歳の時に、父は33歳の時に亡くなりました。結婚歴はありませんでした。洋服に興味があり、若い頃はカジュアルショップの店員として働いていたようです。過去について明かす機会の少ないタケシでしたが、「充実した楽しい日々だった」と懐かしそうにミーティングで仲間達に話してくれたことがありました。

しかし、この頃から覚醒剤に依存するようになり、孤独感を埋め合わせるように依存度を深めていきました。やがてタケシは仕事もできなくなり、精神科病院で薬物依存症と診断されました。事件を起こして逮捕・起訴され、有罪となって刑務所に収監された経験もあったようです。本人は幻覚や幻聴を否定していましたが、覚醒剤に対する親和性が強かったのか、結果として後遺症も見受けられました。

一方でタケシは、生まれつき重症のアトピーで、生涯にわたり苦しみ続けました。彼の薬物への依存は、もしかしてアトピーによる痛みや苦しみからの逃避手段だったのかもしれませんが。それでも依存症の回復を目指し、曲折を経て潮騒JTCに繋がり、やっと自分の居場所を見つけたようでした。そして施設が提供するプログラムにも取り組み、クスリに頼らない生活ができるようになりました。クリスマス会などのイベントでは得意のギターテクニックを披露して、仲間を驚かせたりもしました。

潮騒は、行き場のない高齢者や重症なアディクト達の「最期の居場所」になりつつあります。タケシもそんな仲間の一人でした。社会ではうまくいかない人生ただただに、潮騒を“終の棲家”として彼なりに充実した時間を過ごしてくれました。そして自らを鏡として、仲間達に貴重なメッセージを届けてくれました。タケシよ、もう苦しまなくていいんだよ! どうか黄泉の世界で安らかに眠ってください!

第11回「アディクトには農業のシンプルな構造が向いている」

ユタカ vs トム 対談



—— 前は潮騒のリーダー論に言及していただきました。依存症の回復を支援する社会との中間施設といえども、やはり安定した運営に向けて大事なものはリーダーの経営手腕というか、その力量であり、回復の度合だろうという指摘でした。潮騒ジョブのような後発の施設は、従来のダルクのようにキリスト教会関係者や更生保護団体などからの献金に頼るのが難しくなっています。なので自分達の才覚というか、常識に囚われない知恵と工夫、人を動かすマネジメント力が求められるという、トムさんの貴重な意見でした。今回は、それを更に推し進めて潮騒の特長を生かした就労支援の農業について意見を交わしてください。(司会進行・広報部)

片田舎の寒村で“五反百姓”の貧農ばかりだった

ユタカ まず私がなぜ農業にこだわるかというと、やはり幼少体験が大きいですね。私が生まれ育ったのは、さいたま市郊外の農村地帯です。今でこそ人口127万の政令指定都市に組み入れられましたが、昔は片田舎の寒村で周囲は“五反百姓”の貧農ばかり、どこもかしこも生活は苦しかった。私は戦争で父親を亡くしたので幼くして親戚の家に里子に出され、小学校に上がる前から養家で農業の手伝いをさせられました。当時は子供も貴重な労働力だったから、農作業の苦労は骨身に染みえています。戦争で疲弊したこの国の復興には農業の振興が不可欠で、荒地開墾や湖沼の干拓で食糧の増産が課題でした。まず食えることが先決でしたね。その原体験が今も尾を引いて、差し当たってコメさえあれば何とか命を繋げられるという思いが、どうやら私の根底にあるようです。そこは豊かな時代に育ったダルクのリーダー達との決定的な違いかもしれないですね。

—— なるほど、だから栗原センター長は人一倍農業に

対するこだわりが強いんですね。でも、その後の歩みは農業とは疎遠になりますよね。

ユタカ そうなんだ。戦後の復興期に成長した私らの世代にとって、農業は貧しさの象徴みたいなイメージだから、この貧しい環境から何とか早く脱出したい、との思いが強かった。汗まみれ、泥まみれになって懸命に働いても農家の暮らしは少しも良くならない。私にとって当時の都会は浦和や大宮でしたが、子供心に賑やかな繁華街に憧れました。自分が成長するにつれ、次第に農業とは疎遠になりましたね。やがてアウトローの世界に自分の居場所を見つけると、農業はほとんど関心外になりました。

でも、運命とは不思議なもので60歳でダルクに繋がり、この鹿行地域で支援者の農作業を手伝うようになりました。遠ざかっていた農業に再び出合ったんです。そしたら、私の中に皮膚感覚のように昔やった農業の感覚がよみがえったんですね、子供の頃は単調で時間がとても長く感じられたのに、農作業がとても新鮮に映り、土に触れ合うことが実に心地いいんです。クスリやアルコールがなくても、こんなに楽しく充実した時間を送れるんだってね、そう実感させられました。

回復レベルに合わせて自然体でやれるのがいい

—— そこは面白いですね。やはりハイパーパワーの導きを感じますね。

トム 結局のところ農業って自然が相手だから、人によって差があるとしても、依存症の回復にはとても良い効果を発揮するんだと思います。そこは理屈を超えた霊的な世界ですよ。人間も自然の一部だから基本的なサイクルが合うんじゃないでしょうか。それがうまくクスリやアルコールで傷んだ精神と肉体にコミットする。だから作業療法としても有効で、自分の回復レベルに合わせて、それこ

そ自然体でやれるのがいいんだと思うんです。知的障害者や高齢者の福祉施設などでは、作業療法として積極的に導入しているケースが多いです。依存症の世界で言えば、ヤク中アル中は人工的で刹那的な“一瞬の酔い”に身を任せるという究極の反自然な生き方をしてきた訳ですから、今度は農業の持つ偉大な自然治癒力によって身体的にも精神的にも癒されていくのは、逆説的だけれども理に適っていると僕は思います。

—— 恐らく僕らが考えている以上に、農業にはそんな不思議な回復支援のメカニズムがあるんでしょうね。

トム 何たって自分が手塩に掛けて育てた農作物が、四季折々の変化の中で目に見える形で、それも比較的短期間に成果となって現れることがいいですよ。複雑な事が苦手な私達にはとても分かり易い。アディクトにとってはそのシンプルな構造が向いているように僕は思います。これが熟練を要するような難しい仕事ならそうはいかないでしょう。だからダルクでも、みんなが参加し易いプログラムとして位置付けられている。当事者のやり甲斐に繋がり、達成感が得られるのは、依存症の回復にとっていいことですからね。

ユタカ 考えてみると不思議なんですよ。先程の繰り返しになるけど、この私がダルクでまた農業に巡り合えたことがね。手伝っているうちに、子供の頃はあんなに嫌だっと思ってた農作業の苦労をいとわなくなっていたんですから。依存症になっていなければ農業の面白さや奥深さを実感することはできなかったと思うんだね。子供時代の体験ってばかにできないですよ。私の体が農業のことを覚えていたんだね。これは自分の回復にとって、いい後押しになるとね。それで自分がいつか施設を持てるようになったら、絶対に農業を看板にしたいなあって漠然と考えるようになりました。

ダルクの農業は 地域特性を反映している

—— トムさん、全国各地のダルクでは農業に取り組むケースは多いんですか。

トム 僕の知る範囲でも、いくつかのダルクが早くから農業をプログラムに取り入れています。ダルクの農業は地域特性を反映しているケースが目立ちますね。かつてならキムチ作りの長野ダルク、果樹園芸を支援する山梨ダルク、三重ダルクはミカン農家とのプロジェクトに力を入れています。北陸で冬場は農業が難しいけど富山ダルクも頑張っています。原発事故の除染を絡めた農業支援を手掛ける磐梯ダルク、それにプロ農家の支援で本格的に農

業に取り組む栃木ダルクなど、それぞれ成果を上げているようです。やはりダルクの農業がうまくいくには、地元支援者の存在と下支えが大きいようですね。

—— でも、恐らくダルクメンバーは農業については素人ばかりでしょう。軌道に乗せるのは大変な事だと思うんですが…。

ユタカ とにかく戦後の貧しい時代をくぐり抜けて来た私には、腹いっぱい食えることの有難さという意味では、農業への思い入れは人一倍強いものがある。世をすねて横道にそれた極道人生の私でも、さっき言ったように子供時代の農業体験は忘れられない原点な訳です。そうした古い人間ですから、農業には経済の効率性などでは推し量れない一種のノスタルジーを抱いてしまうんですね。だから問題のTPPにしろ、厳しい環境にある農業が海外との競争にさらされて、高齢化が著しい農家が今以上に痛めつけられてしまうんじゃないか。そうしてコメを作らなくなったら、この国は終わりだという感じがあります。農業への郷愁がDNAとして私の体の中に染み込んでいるような気がします。ヤク中アル中の分際で生意気だ、偉そうな事を言うな、って言われるでしょうがね…。

トム 外野から見ていて思うんですが、潮騒農業はユタカさんのマネジメント力が見事に生きていますね。社会ではバッテンを付けられた人達をうまく“再生”させているように思います。個性豊かな仲間達のマンパワーをうまく引き出すことに成功しています。何たって潮騒には他のダルクにはないマンパワーがある。昔と違って日本の農業も主流は機械化、省力化なんだろうと思いますけど、潮騒農業はその逆をいっている。昔のように人手を掛けてマンパワーでやろうぜ、というのはとても贅沢なことだと思うんですよ。当事者からしても、施設内で引きこもっているより、野外で太陽の日差しを受けながら自分達のペースで農作業に励む意義はとても大きいだろうと思います。

—— どうですかセンター長、そのところは。

ユタカ 何しろ農業は相手が自然そのものですから、こちらの都合や思い通りにはなかなかいかない。じっくりと待つしかない訳です。よく見ていると、農業隊メンバーは勤勉さや忍耐力を養えているし、試行錯誤だけれども少しずつ技術力も高まっているようです。一番のメリットは、作物の成長が目に見えて分かること。打てば響く世界ですから、依存症の回復にはとてもいい。俺が俺がという自己中心的な態度が和らぎ、いつの間にか“聞く耳”を持てるようになる。体ごと謙虚になるというか、「待つ」ことの大切さを覚えるんですね。だから私のように、みんな優しくなります(笑)。(この項続く)



秋季イベントに女性の仲間が活躍

潮騒の秋は各種イベントへの参加で大忙しです。主な恒例行事だけでも第26回鹿嶋まつり(10月23~24日、カシマサッカースタジアム周辺)、神栖市芸術祭・和太鼓発表会(11月3日、同市文化センター)、第10回て〜ら祭(11月5~6日)と続き、とりわけ今年は女性メンバーの活躍が光りました。模擬店での焼きそばなどの販売、和太鼓やエイサー演舞に加え、就労支援B型事業として取り組むクラフト作品の試行的な販売などで力を付けています。以下は、そんな女性メンバーによる各イベントへの参加感想です。

みく

「若い者には負けなぞ!」と
焼きそばづくりに自信

鹿嶋まつりに参加し、初日にはお昼過ぎにフリーマーケットを見て、買い物をしました。昔は他人が着た服なんてとても着られなかったのですが、今はそんなことを言っていられません。洗濯すればいいのだし、変なプライドは必要ありません。そのことをこの施設で学びました。その後に、女性ハウスの仲間二人が参加しているエイサーの舞台を見ました。緊張していたらしく、ちょっと間違えた部分もありましたが、終始笑顔で頑張っていました。私は心の中で何度も「頑張れ!」と叫びました。

2日目は毎年かり出される焼きそばのバック詰め作業でした。正直、立ち仕事はきついけど、手さばきだけは人には負けません。チャチャと手が勝手に動き、まだまだ若い者には負けなぞ!と自信が持てました。年に一度ですけど、お客さまの嬉しそうな笑顔を見ると、頑張った甲

斐があります。完売した時には思わず、「ヤッター!」の歓声が出てしまい、仲間とハグしました。とても有意義な一日でした。

神栖市文化センターでの芸術祭では、潮騒の仲間達が参加した和太鼓とエイサーのお披露目があり、るみの家でも見学に行きました。女性メンバーの仲間4人がエイサー隊に加わり、初の大舞台となりました。朝から緊張している仲間を見て、精一杯頑張っしてほしいと思っていました。毎日練習をしている成果が今日、認められたと思います。男性メンバーに交じって一歩も引けを取らない、とても素晴らしい演技だったと思います。和太鼓の方は久し振りでしたが、やはり凄いなあーと思いました。大太鼓のあの重低音、お腹にズシリと響きました。特に鹿島灘太鼓の島田正之会長の作った「実り」はいつ聞いてもステキでした。また聞けたらいいなあ、と思いました。

めい

仲間たちの応援、声援が
本当にうれしい一日だった

鹿嶋まつりの一日目では、エイサー隊として舞台上上がりました。一年前は観客席から声援を送っていた私が、まさか一年後に舞台上にいることなど想像もしていませんでした。とてつもない緊張に襲われ、ひざはガクガクし、のどは乾き、お客様の顔など見てる余裕はありませんでした。失敗なく終えることができましたが、正直演舞中のことは覚えていません。ただ、達成感は半端なかったです。2日目は前日と打って変わって焼きそば隊でした。2000食をひたすらバック詰め、青のり、紅ショウガ、箸、と流れ作業で仲間と必死に頑張りました。最後の一つが売れたとき、拍手が上がりました。疲れたけど充実の一日でした。

神栖市芸術祭では前日のリハーサルから緊張感漂う中、私は舞い上がっていました。大舞台上に立てる喜びで一杯でした。当日の朝から最終確認。足袋をはき、帯を締めると、いい緊張が体に走りました。声出し、足上げ、バチ回し、そして笑顔。本番までに自分に叩き込んできたことを思い出していると、ますます緊張していました。そしていざ本番。前列だった私の目に飛び込んできたのは仲間たちの心配そうな顔でした。そして笑顔の施設長とセンター長。練習の成果を出すべく臨みました。途中、何度か失敗してしまいましたが、精一杯演舞できました。仲間たちの応援、声援が本当にうれしい一日でした。施設に戻ってからも、皆が夕食を作ってくれていたこと、感謝・感激しました。いい疲れを感じた一日になりました。ありがとうございました。

て〜ら祭では朝一番に会場入りし、焼きそば、芋、クラ

フト作品の販売をしました。雨が一瞬降った時には焦りましたが、天に味方されたのか、間もなく晴天に。焼きそばが順調に売れていく中、クラフトコーナーはなかなか売れずに落ち込みました。でも、一つ売れるとじゃんじゃん売れ、かごバックは完売。笑顔が自然に出ていました。午後3時に模擬店を後にして、今度は仲間が出演するエイサー演舞のステージへ。舞台が狭い分、観客との距離が近かったのが印象的でした。一曲目から盛り上がり、会場が一つになっていました。栗原センター長、施設長のルミさんがまるで子供達を心配そうに、でも嬉しそうな顔で見守ってくれました。舞台の上の仲間達も笑顔でアイコンタクト。アンコールまで入り、本当に楽しめました。去年は見る側、今年は見せる側というのが最近続き、不思議な感じですが、心にぐっとくるものがあります。疲れたけれど、感動させられる一日でした。ありがとうございました。

しま

焼きそばを完売した後の
みんなの笑顔が素敵だった

鹿嶋まつりに行くのは、もう何回目だろうか？最初は“フリマ”が楽しみで、2年目からは潮騒ジョブが参加している模擬店の名物焼きそばを完売するのが、私達の戦いです。長い行列ができる中、売り子の私達の後ろでは目が回るような忙しさで焼きそばを作っています。何となく仲間の連帯感に押されて、私達売り子も声を張り上げてお客さんを呼び込みます。完売した後のみんなの笑顔が素敵です。心地よい達成感と一体感、互いに言葉には出さなくても「頑張ったね」という具体。感激で胸がいっぱいになりました。今年もありがとう！

なあな

なれた場所なので緊張せず
笑顔でエイサーを踊れた

11月3日、神栖文化センターで市芸術祭参加の太鼓だけの発表会がありました。朝の5時に起きて気合を入れ、いざ本番——本番までの待ち時間がとても長かったのですが、緊張のせいかあっという間。今までの舞台とは違って、そこまで緊張せずに舞台上がれました。照明が明るく、お客さんが見えなかったのも、それも成功のもとだと思います(笑)。初めて失敗することなく踊ることができました。とても疲れたけど、帰ってきたら、仲間たちがご飯を作ってくれて待っていてくれて、その温かさに一気に安堵しました。

その数日後には、いつもNA会場にお借りしている鹿嶋まちづくり市民センターでのイベント「て〜ら祭」があり

ました。いつもと違い会場は賑やかでした。午前10時から午後3時まで、私たちは焼きそばと手作りのクラフト(バッグやコースター)などを売りました。焼きそばはなんと100円！どんどん売れていきました。クラフトも売れ始め、私が作ったバッグも売れて、とてもうれしかったです。午後4時からエイサーだったので3時頃からエイサーの準備をし始めました。今回は慣れている場所のせいか、緊張せずにとっても楽しく笑顔で間違えることもなく、踊れました。仲間のおかげです。本当は、焼きそばを売るのにヘトヘトだったし、なぜ演舞の前に…？と思っていましたが、終わった時の疲れはとてもいい疲れでした。まだまだ自信のないエイサーですが、フォーラムまでには完璧にして両親に見せてあげたいと思います。そしてクスリを使わなくても、楽しく達成感を感じられる素晴らしいさを体験しました。

れいこ

忙しかったけれど心地よい
達成感を味わうことができた

10月23日に鹿嶋まつりに参加し、去年同じように焼きそば販売をした仲間が、一生懸命焼きそばを大きな鉄板で焼き、女性達はバック詰め…その甲斐あってほぼ完売することができました。潮騒食堂「おらげのかまど」のヒロさん、みかさんも加わり、りょうじさんも、お客様として顔を見せてくれました。忙しかったけれど、心地よい達成感を味わうことができ、楽しい一日でした。

くま

凛々しいエイサー仲間達の姿が
私の心を躍らせた

11月3日の神栖市芸術祭では、エイサーの演舞もあったのですが、私自身エイサーの一員にはなったものの、まだまだお客様を前に演舞できる状態ではないために、発表会に出ることはありませんでした。でも、エイサーの仲間達の普段の練習のときとは明らかに違う姿を目の当たりにして、私はわくわく嬉しい気持ちになりました。前日の2日夕方にはりハーサルのため、私も舞台上での練習に加わったのですが、以前パレエの発表会で舞台上に立っていた時の感覚が大変強くよみがえり、私は舞台上に立つことの何とも言えない心地よさというものを密かに感じていたのです。

それだけに3日本番の舞台では、衣装を身にまとったきれいで凛々しい仲間達の姿が私の心を躍らせるに十分なものでした。そんな仲間達の演舞は、大変キラキラ輝いて見えたし、とにかく素敵でした。早く私もこの一員として、仲間と共に演舞できる立場になりたいなりたいです。

受刑者からの手紙

少しずつ成長していける事を目標に無事故で頑張る

毎回、潮騒通信を読ませて頂きまして思うのですが、私が潮騒に居た頃とはだいぶ入寮者の顔触れが変わって来て居るのだなあ、と思いましたし、プログラムの内容が変わって来たのだなあ、と思います。皆さん、本当に良い笑顔で生き生きとして生活されて居るのだなと、凄く伝わって来ます。

私も同じように潮騒に繋がったお陰で、沢山救われたところもありますし、だいぶ回復も出来ました。だから、今まで後悔していたけれど、半年という短い期間での退寮と言う事に成ってしまった拳句、また生活が逆戻りしてしまって不安定になり、再び受刑生活を余儀されなくされています。今は気持ちを切り換えてとにかく、事故を起こす事無く、無事故で常に自分を変え、「少しずつ成長していける事を目標に一日でも早い社会復帰を目指して頑張っていく!」と強く決意を固めて居ます。

最後に成りますが、潮騒を引受人として申請しました。出所後は潮騒で今まで以上に頑張っていく決意がありますのでどうか、宜しくお願い致します。それと、潮騒通信を定期的に差し入れて頂きたいのですが可能でしょうか? 宜しくお願い致します。それでは、この辺で失礼致します。(北海道 S・K)

我が工場チームが「ベストフェアプレイ or 応援賞」に

9月末~10月前半頃までは雨天の日が多く、気温も低めの日が多かったので、私なりに潮騒の稲作の出来や、刈入れ等、その他の農業の方も心配? していたのですが、どやら杞憂でした。ユウキさんからのお手紙、とても嬉しく拝受しました。それによると、とても美味しい新米が収穫できたとの事で、私事の様に嬉しく思っております。これからの時期はサツマイモの収穫が始まるそうですね。私の様に寄せ場で生活していると、祝祭日や集会の特食以外では唯一の甘味品・デザートはサツマイモです(笑)。食べたいやら羨ましいやら…、麦飯ばかり食べている私達にとっては白米でさえ、とてつもなく御馳走ですからネ(笑)。

ところで、10月半ばに行われた秋期大運動会の結果ですが、私が勤めている金属加工の工場では69人が参加して各自それなりに頑張ったのですが、スウェーデンリレーではバトンを落とすし(笑)、ボール送りでもバケツリレーでもコケてしまうし(笑)、結果が実らずに全工場の中での順位は最下位でした。わずか1点しか得点出来なかったのですが、なんと私も参加した応援団と、みんなの盛り上がりや活躍の甲斐があつてか、今年から新設された「ベストフェアプレイ or 応援賞」を受賞する事が出来ました。

賞品として全員にハンカチが配られて、我が工場チームのまとまりだけ? はアピールする事が出来ました。おかげで工場担当の機嫌もよろしく(笑)、顔も立てられて、そのせいか、“モタ工”とされた我が工場の締め付けも、私に対する当たりも幾らか和らいだ気がする? のは私だけでしょうかね(笑)。当日は天気も良く、食べ物も競技中にあんどうナツとコーラ、その日の夕飯に唐揚げなどの折詰とパン食、これに加えてエクレアと紅茶が出されて、例年になく笑顔の絶えない楽しい一日でした。後の楽しみは正月を待つのみですね(笑)。

私事ばかりで済みません。そう言えば、私は官の方に以前自ら「覚醒剤離脱教育」の受講を願い出て居たのですがその希望が叶って、この11月より受講が始まる事がほぼ決まりました。今まで7回も薬物に関わる懲役を務めて居たのに、自分から求めてそういった教育を希望した事は無かったので、どのような事をするのか判らないし、また自分の心構えにしても不安が多々ありますが、「今ここで自分に出来る事とは何なのか?」をよく考えて、少しでも自分の知らない自分の姿を見つめたり、害について考えたり、そしてこれからの道を定める基本というか、指針に出来れば良いな、と考えています。(神奈川県 U・T)

今回の手紙の中に「生者必滅・会者定離」の諺があります。命あるものは必ず死に、出会った者は必ず別れが来るのが世の定めだという、仏教の無常の教えです。私達も同じ価値観を共有していますが、決して絶望には繋がりません。むしろ心の平安に通じる魂の在り方です。平家物語の維盛入水の一説には「生者必滅・会者定離は憂き世の習ひにて候ふなり」(第10巻)とあります。

哀しきかな人は“生者必滅・会者定離”が避けられない

お手紙、パンフレット等を頂き、感謝の思いです。当方でも冬支度が進む中、私としましては何ら変わった事もなく、日々の消化に努めております。これまでに送付していただきました潮騒通信「どっこい生きてます!」を暇さえあれば広げて、自分もその場に居たらなどと空想に浸って楽しんでます。何度目かの手紙に「潮騒に來た際には出来る事が必ずある!」と言って下さった事がとても嬉しく、私もぜひそう願いたいし、自分の役割であっても自分の過去を活かせる存在に成れば、と胸弾む思いで一杯です。

<追伸>

「どっこい生きてます8、9月号」の編集後記欄に(市さん)の親族に訃報が生じた旨が記載されていましたが、私も今回逮捕される半年前、一年間交際していた女性が動脈瘤破裂にて入院一週間で永眠しました。40歳の若さ故に彼女の無念さを想えば辛くて、当時は何する気持ちも失せ、外出もしなくなった日が続きました。その中で時が心の痛みを少しずつ取り除いてくれた思いがします。哀しきかな人は“生者必滅・会者定離(しょうじゃひつめつ・えしやじょうり)”。誰もがこの悲しき壁に遭遇するのが運命ととらえ、「生きるしかないのだ!」と私は考えます。故人を心の一片に残し思い続ける事も供養の一つかと私は思います。きっと千の風と成って私を見守ってくれるでしょう…。遅ればせながらこの紙面を借りましてお悔やみ申し上げます。合掌! 市さんにお会いする機会がありましたらお伝え頂けたら幸いです。(神奈川県 O・T)

マーシーも回復の道を踏み出せて本当に良かった

この先、関東地方も寒くなって来ますので、潮騒の皆様、風邪などひかぬよう、お身体に御自愛下さい。私のいる北の大地も雪が降り、いよいよ冬本番も間近になりました。フジさんも私も同様ですが、クスリのためであれば何でもする、それが当たり前のように勘違いして生活する日々、この先もこのまま出所したらまた、同じ事の繰り返しの日々と成るでしょう。

先日、DARCの「薬物依存症」のDVDが放映されて視聴したのですが、依存症は本当に恐ろしい病気だと思い知らされました。何でも「年齢が若い程、薬物を使用した場合、回復するのが難しい」と、DARCの方が言っていました、その辺の所を教えてください。私自身、覚醒剤を本格的に使用したのは三十歳前後位だと記憶しています。思えば約25年のヤク中人生のうち懲役が約10年としても、実に15年間は覚醒剤と共に生きて来ました。そう考えると、無駄な10年を塙の中で過ごして来ている訳で、なんとも勿体ない人生を歩んで来たような気がします。もう二度と塙の中には来たくありません。回復を目標に取り組んでいきたいと思しますので、宜しくお願い致します。

そういえば、田代まさしさんも回復したのですね。マーシーもシャネルズが売れていない時からよく知って居ますが、話が面白くてコンサートではいつもMC担当だった気がします。あのマーシーが覚醒剤で人生を駄目にして、信用を無くして、無駄な時間を過ごして来たのですね。やっぱりマーシーも私と同様に「もう塙の中の暮らしは懲り懲りだ」と思ったのでしょうね。今現在は回復の道を踏み出すことが出来て本当に良かったと、心の底から思います。最後に成りますが、今回の手紙の中で「今日一日」。この言葉を実践していく事が、回復の道に必ず繋がっています。チャンスは必ず平等に与えられます。「今日一日」——この言葉に深い思い、意味を感じております。私も社会に出て、今日一日を思い出しながら、生きて行こうと思います。良い言葉を有難う御座います。皆様、お身体に留意して生活して下さい。(北海道 S・N)

しおさい、俳壇

11月のお題

焚火

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.34

センター長 栗原 豊

早いもので師走が目前に迫っている。今年も駆け足で過行く感じだが、堀の中には気ぜわしい社会の流れとは異なり、歳末につきものの世間の喧噪も届かずに比較的ゆっくりと時間が過ぎていく。今回は一足早く、かつて師走半ばに姪に宛てて出した手紙を紹介する。

◇ ◇ ◇

先日は年賀状書きをしました。ここでは僅か5枚以内と限られています。そんなことに歳末の気配を感じていますが、昨日は工場対抗ソフトボール試合の決勝戦があり、私の居る工場が見事優勝しました。私は専ら応援席の野次將軍を務めました。勝利を得るというのは大変気分のいいことですね。私は勝気な性分で負けることが大嫌いです。そんな性分だから、クスリをやってもついつい深入りしてしまいます。幻覚幻聴でどうしようもなくなるまでやってしまっていたのです。それも今では数回のクスリでもすぐに狂った状態に陥ってしまうのだよ。そして、その状態が長引くというか、治らなくなってしまうのだ。

外にいても、ここ何年かはクスリを使うとすっかり廃人のようになってしまっていたのに、そのことを誰にも話せず、独りで悩んでいた。こんな酷い体験をしていたものだから、今度こそクスリをやめられるのではという期待と、いやまたハマってしまうのではないかと、という二律背反の気持ちが常に自分の中で付きまとい、行ったり来たりしていた。君には分かると思うが、変な自信と絶望的な不安が交互にやって来ます。と、またもやクスリの話になってしまっただけで済まない。君になら何でも話せると思い、ついつい愚痴を書いてしまうね。

それから、これは君だから頼めるのだけれど、出所時に迎えに来る時に二日酔いの薬、液体アンプルか瓶入りのやつを2本買って来てほしい。堀の中の生活ですっかり胃が刺激物で弱くなっているというか、とても敏感になってしまっているのです。食事をうまく摂るためにも、タバコやコーヒーなどを飲む前に飲んでおきたいのです。あとカメラも頼む。これが最後の刑務所としてのので、何枚か写真を撮って欲しいのだ。前橋刑務所の煉瓦堀も絵になるしね。君も仕事の方が大変だろうけど、頑張り通してください。何事にも敗者にならないことだよ。では健康で良い年を迎えてください。最後に、ここの煉瓦堀でいくつか詠みみたので、それらを添えます。

冬の日の色となりけり煉瓦堀 | 冠雪の浅間載せいる煉瓦堀

極月の街を隔てて煉瓦堀 | 落葉して隠すものなき煉瓦堀

思う事
何にもなくて
焚火かな

焚火かな

特選句

優子

最近焚火(たきび)も余り見掛けなくなりましたが、それでもこの鹿島や神栖では庭の広い家が多いので小さな焚火をするし、農家では畑の隅などで草焼きを兼ねて焚火をする。その焚火に温まると身も心も安らぎ普段の忙しさを忘れる。実感の歳を重ねた、少しの哀れも込めた句です。

燃え盛る
焚火やそこに
故郷あり

焚火やそこに
故郷あり

特選句

ひろ

昔の冬の農作業、土木、建築現場などでは焚火をして朝の暖をとり仕事したが、今では火災の心配で少なくなった。それでも焚火して燃え盛る火に故郷を思う。建設現場などでは木屑などを一日燃やしてお茶の湯も沸かした。夕方学校の帰りに立ち寄ったのも懐かしい句です。

石焼薯
この頃来ないね
食べたいね

この頃来ないね
食べたいね

特選句

みく

薩摩芋は1605年頃沖縄に伝わりその後鹿児島県から全国に広まったので「薩摩芋」の名がある。米の代用として江戸時代から戦後まで重用された。また石焼薯(いしやきいも)は1951年頃、静岡県三野輪万蔵氏の考案と言う。リヤカーや軽トラで売りに来た、懐かしい句です。

今月の秀逸句

焚火だな子の日を思ふ夕まぐれ

いるか

童謡にも焚火がありますが、昔は夕方にも焚火をして庭の落葉や塵を焼いた。そこに夫々の家庭の温みもあった。祖母や父母、兄弟の顔も懐かしい句です。

孫達と昔話に焚火かな

おの

孫達と庭の落葉を集めての焚火かも。作者も子供の頃の話や桃太郎、かぐや姫の話をしているのかも。今では核家族になって、こうした団欒も少ないが微笑ましい景を彷彿する句です。

海女さんの焚火に聞こゆ笑ひ声

あべ

海女は魏志倭人伝にも記録があり、女性には海女、男は男士と書き、舟人(ふなど)徒人(かちど)に区別される。北限は岩手県久慈で伊勢志摩、輪島など名高い。昔は一万七千人くらいで今は二千人とも。三月から九月に働き身体を温めるに焚火をする、笑い声は豊漁で少しの艶冶も思う句です。

人の輪のくずれまた輪の焚火かな

ゆたか

焚火は2002年頃法で規制され少なくなりましたが、火は人類の生活に古来から親しい物。また畑や工事現場の団欒の一つ、煙や炎に人の輪がくずれたり輪になったりする実感の句で懐かしい。「夜焚火にぬつと顔出す両手出す」も如実の句です。

ラブレター出せずに燃やす落葉焚き

ともゆき

若い頃の特権の一つは恋をする事でもありますが、思いを寄せた人にラブレターを書くのは楽しく、切なく感慨深い。その諸々の思いに書いたものを出せずに焼くのは哀しい。近年はメールがありますが、本当に思う人へは生涯の記念に一筆書くのも男としますし、青春の頃が懐かしい句でもあります。

捨てられぬ思い焚火に投ずかな

とむ

恋の思いか或いは青春の悔いか、何れにしても忘れない、捨てたいと思うが、心の記憶はそれが出来ない。物であれば直ぐに燃やせるのだが、燃え盛る焚火に切々とした句です。

※編集部でのミスで前号の俳句の一部(秀逸句)の解説が間違っていましたので、正しい作品を再掲載します。

もののふの兜に飾る鹿の角

ひろ

もののふは武士、物部のことで、むかしは鎧兜に身を固めて戦をした。その兜には飾りや武威を表す鹿の角や三日月、矢などを付けた。真田家など名高く、今はJリーグ鹿島アントラーズも名を使う。面白い句です。

佳作

野菜置き焚火を囲み談話かな	かこ
焚火して落焼きながら暖まる	なあな
帰り道あたる焚火も懐かしき	めい
皆でね焚火を囲む朝かな	しま
焚火して身よりも心暖まる	くま
ほのかにも我が手温もる焚火かな	れいこ
庭先に焚火を囲む子供かな	みく
焚火の音口やかましき母に似る	ひろ

ほくほくと焚火に焼けし里の味	こば
紅蜀葵我が家の庭の隅に咲く	カート
山畑の焚火幾すじ故郷かな	あべ
夕暮れの家族揃ひて焚火かな	しげ
焚火してゆかりんほっぺ真っ赤か	けん
焚火燃ゆ赤々けふは神無月	ゆき
焚火見て故郷を思ふ一句かな	カート
塵木の葉集めて庭の焚火かな	もと

どっこい

私も生きてます～我が回復記～「ブーちゃんの回復記」

第2回

高1で出生の秘密を知り飲酒のコントロールが困難に

家で義父の晩酌に付き合う形で、中学1年頃から酒を飲み始めた僕は、ちょこちょこ隠れ飲酒をするようになりました。もちろん子供に、酒の味などは分かりません。ただ、酔いの心地よさだけが脳にインプットされてしまったのです。そのうちに、少しずつ体にアルコールを入れて、自分の気持ちをごまかして嫌な学校に通うようになったのですが、何とか地元の区立中学を卒業しました。高校は、少し離れた所にある都立高校に進学しました。しかし高校では、毎朝の登校がだんだんと気が重くなり、朝景気づけにキャップ一杯のアルコールをなめて、自分の気持ちをごまかして登校するようになりました。

高校では今あちこちで問題になっているように、あからさまないじめではなかったのですが、陰ではいじめに近いような扱いをされていました。それなりに仲良くするグループもあったのですが、いつの間にか僕は級友達の間で、AC(アダルトチルドレン)の世界で言われるピエロ役を演じるようになっていました。はしゃいで、みんなに注目される存在です。嘲り笑われる役を演じることで、自分がかろうじてグループ内のポジションを維持していました。なので気持ちの上では「あいつらの前には居たくない」というのが本音でした。そこは僕の本当の居場所ではありませんでした。その気持ちを酒でごまかしていた訳です。

酒臭いのでクラスメートから告げ口され、先生からも注意されたりもしましたが、それでも、飲み続けました。もはや、自分の体が酒をやめられなくなっていたのです。とにかく酔って自分の気持ちを誤魔化して登校し、かろうじて学校生活とのバランスを取っていたのです。次第に酒量も増えていき、うまくバランスが取れなくなっていく折のことです。

高校1年の時に原付バイクの免許を取るために区役所で戸籍謄本を取ったら、昔の書き方だったので僕の欄に「養子」と書いてあったのです。驚きました。僕は親父の子じゃなかったんだと、初めて自分の出生の秘密を知りました。僕には弟が3人いるのですが、5歳の時に生まれたすぐ下の弟は二男のはずなのに「長男」とありました。さらに三男についても「だから名前には二を付けたんだ」とか、「よくある兄弟げんかなのに僕だけがもの凄く叱られたのは、やはり実子が可愛いからだだったんだ」などと、自分の中にあった素朴な疑問が次々に氷解していき、父への複雑な思いや反発感情が湧き上がりました。そうした感情をうまくコントロールできずにいた僕は、現実逃避するために仲の良かった同級生達と外でやけ酒のような形で飲む機会が増えました。

その頃になると、もう僕は高校での勉強や高卒の資格などはどうでもよくなり、その頃のめり込んでいたバンド活動に夢中だったので、学校よりもバンド仲間や当時付き合っていた彼女達との飲み会が一番の楽しみとなり、その時だけは束の間の充実感を得ていました。そうして結局は出席日数が足りなくなり3年に進級ができずに、高校は2年で退学する羽目になりました。

(次号に続く)

11月のバースデー

ノッコ



努力です。

キョウスケ



今日一日

ハンペン



パソコン教室参加しました。

11月の行事予定

- 11月5・6日 第10回「て～ら祭」
(鹿嶋市まちづくり市民センター)
- 11月10日 潮騒俳句会
- 11月13日 行方市ひなたぼっこ エイサー発表
- 11月13・19日 秋元病院メッセージ
- 11月20日 潮騒家族会
はまなす公民館エイサー発表
- 11月23日 潮騒フラワーロード花植え作業
- 11月27日 潮騒ジョブトレーニングセンター
11周年フォーラム(鹿嶋勤労文化会館)

12月の行事予定

- 12月8日 潮騒俳句会
- 12月11・17日 秋元病院メッセージ
- 12月18日 潮騒家族会
- 12月22日 潮騒ボウリング大会
- 12月25日 潮騒クリスマス会
- 12月27日 潮騒歳末餅つき大会

献金・献品を頂いた方(11月15日現在)

- ・松倉中央クリニック様 ・匿名希望様
・美園野保育園様 ・船橋市 築山 秀夫様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援
くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。

ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいて
おります。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

このところ妻の死で気持ちが内向きになっていた
ら、世界の民主主義の手本? とされるアメリカが大
変な事になっていた。注目を集めた大統領選挙で、あ
のドナルド・トランプが勝利し、次期大統領に選ばれ
たのだ。各種メディアは「世紀の大番狂わせ」という
が、どうやら僕にはアメリカならずとも世界全体が袋
小路に嵌ってしまい、次の時代に繋がるビジョンが見
えなくなっている危機感から、間違って“毒薬”を飲ん
でしまい苦悶しているように思える▼これまでも
人々は、自分達の生活が苦しくなると、安易に過去を
美化して郷愁を強くするか、一見分かり易い存在を敵
として目の前に無理やり作り出して、憎悪や反感をむ
き出しにして溜飲を下げてきた。こんなご時世では、
さしずめヤク中やアル中は格好の標的となるから注
意が必要だろう。既に悪例がある。フィリピンのドゥ
テルテ大統領のようなリーダーの出現だ。彼は「ヤク
中やアル中には人権などない」とばかりに平気で「皆
殺し」を強弁し、そして実行している▼ドゥテルテが
大統領就任後、「麻薬関連」を疑われ、警官らに殺され
た者は、警察当局によると2400人を超えた。ナチス・
ドイツの指導者ヒトラーを引き合いに出し「ヒトラー
は300万人のユダヤ人を虐殺した。(フィリピンには)
300万人の麻薬中毒者がいる。私は喜んで彼らを虐
殺する」と。これこそ「暴言の極致」だろう。何かにつ
け奇麗事ばかりの「既成の権威」をぶち壊したい悪魔
の欲求は僕の中にもある。もはや「暴言」が正論を駆
逐して万人にウケる時代になつたのだろうか?▼
今、世界には威勢のいい言葉が飛び交い、国によつて
はあたかも市民権を得るまでに席卷している。出口
のない閉塞感から自暴自棄になり、昔なら「暴言」と
して眉をひそめた言葉が、希望のない現状と妬みと不
満、敵愾心に満ちた人々の思いを代弁する役割をして
いる。その延長線上には競争と闘いがある。これこそ
依存症の回復にとって最大の障壁なのだが、人々は目
先の分かり易く威勢のいい言葉に自らの思いを仮託
するしかないのだろうか…。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2016年11号

Contents

- P② クラスメートの少女達に私の失敗体験を伝えたい
- P③ 第2回 イチさんの棚卸「日記風の回想録」
- P④ 鹿島灘高校の「第25回灘潮祭2016」
- P⑤ 「タケシよ、黄泉の国で安らかに!!」
～潮騒の仲間達が勢揃いしてお別れ会開く～
- P⑥ ユタカ VS トム 対談 第11回
「アディクトには農業のシンプルな構造が向いている」
- P⑧ 女性ハウス「るみの家」
秋季イベントに女性の仲間が活躍
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇「焚火」
- P⑭ どっこい私も生きてます「ブーちゃんの回復記」第2回

■ 編集・発行:

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号

〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10

TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号

〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16

TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス銚田

〒311-2113 茨城県銚田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



